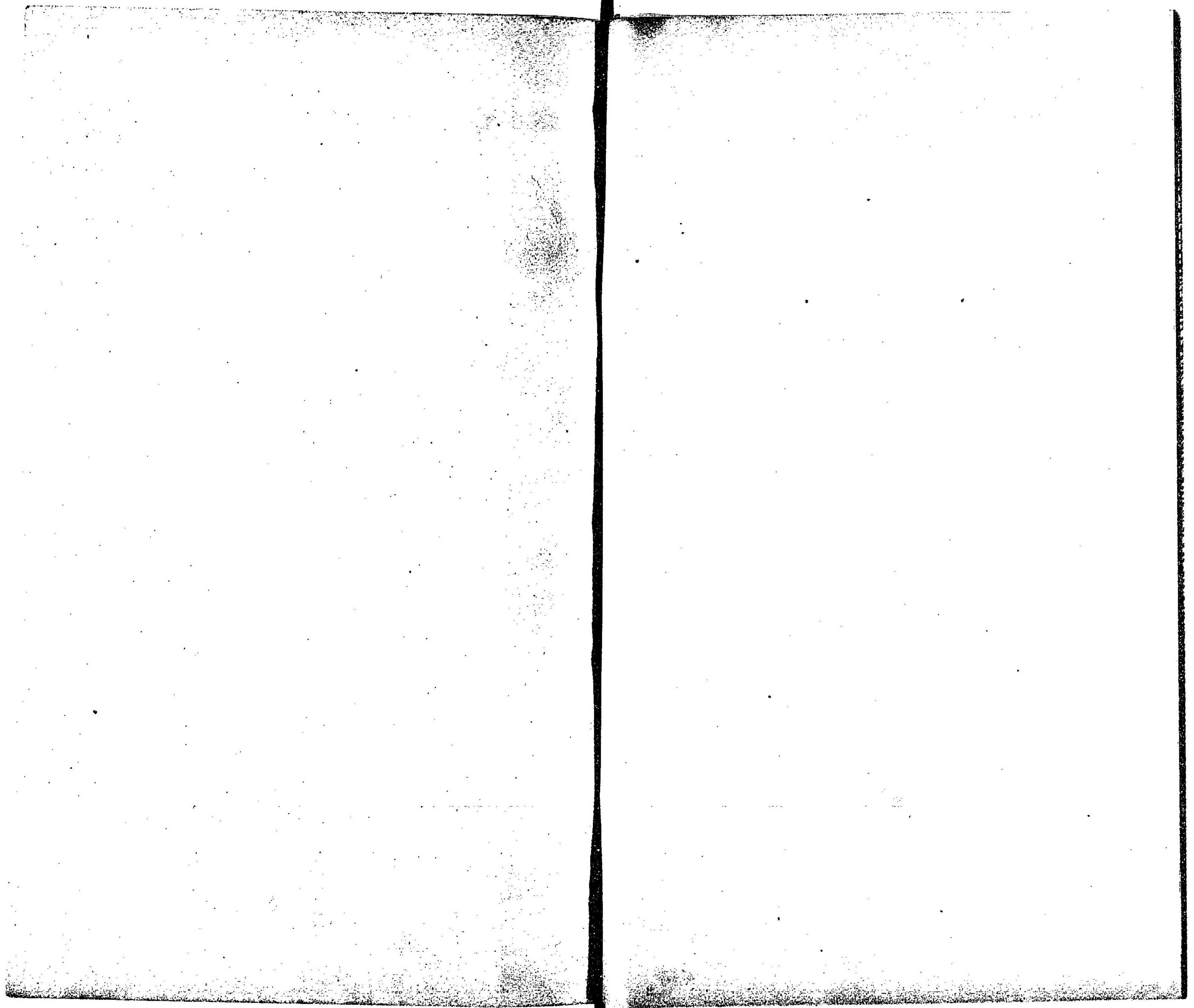


特4

80

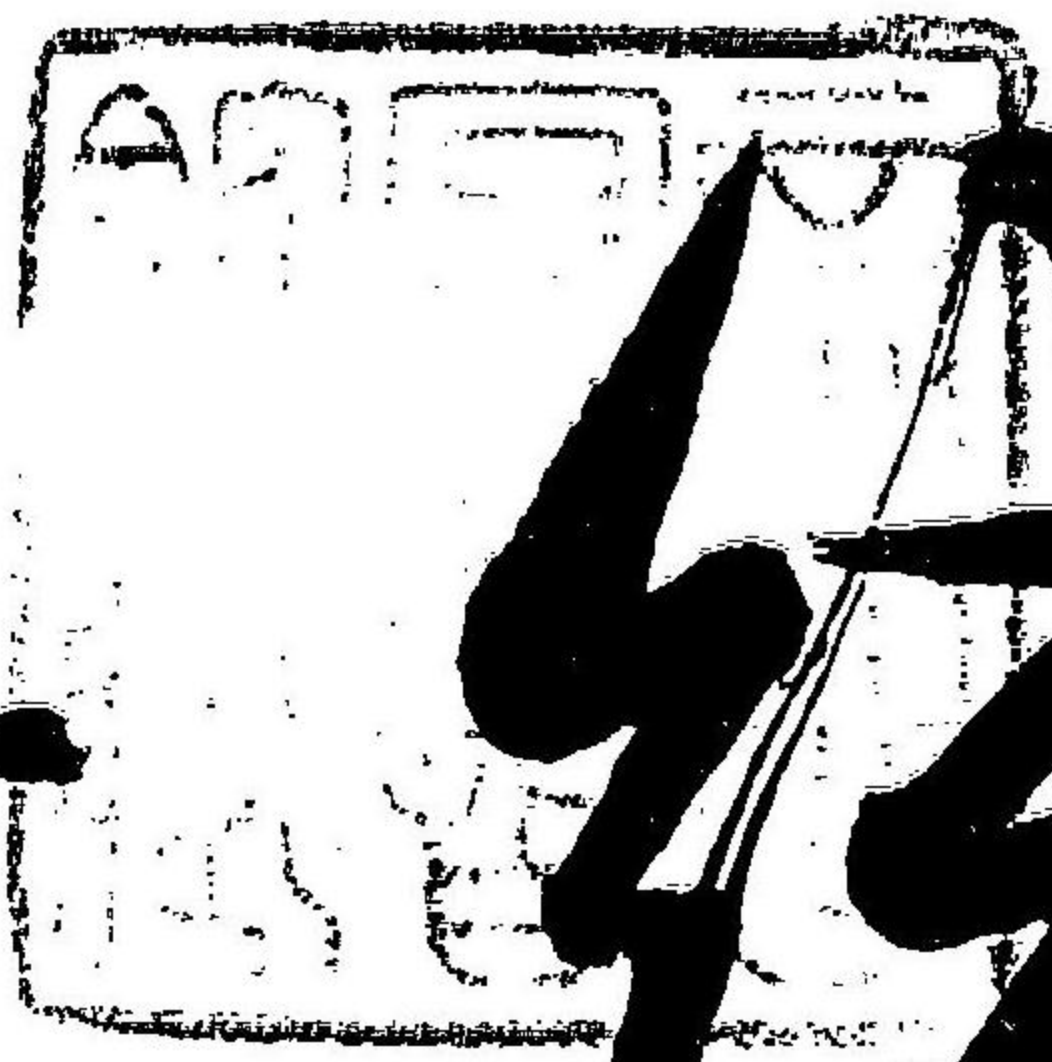


265
109



音息緒
法中傳

傳



明治
43. 6. 27
内交

己酉初夏

柳江題



櫻井驛

玉蘭作

去歲の都の戦争に

脆くも敗れ九州へ

落行きたりと聞いたる

逆賊足利尊氏同真義

筑紫の勢をかり集め

再び都へ攻め上るよ

時の將軍新田義貞

急便を以て奏聞奉りければ

宸襟最も安からず

楠判官正成を召され

急ぎ兵庫へ下向して

義貞に力を令せ

合戦すべしと詔勅あり

正成詮なくかゝりみづ

精兵僅か五百餘騎を従へて

建武三年如月なほは

勇躍都をたち出て

兵庫をこゝろ下りける

茲に又正成の二子正行は

今年僅か十一歳なれども

父の決意を察せしにや

何處までも従ひ行く

其時に成櫻井の驛に於て

正行を近く召し寄せて

つゝ教諭されけるは

彼の獅子とらふは

子を産てより三日と過れば

數千丈の絶壁より

谷底深く擲落し

器量を試すとわや

其子獅子の勢ありば

中より返り死せずといふ

況や汝既に半歳に於餘りぬれば

父が教を守るべし

それ今度の戦ひは

天下安危の分る所なれば

今生にて汝を見る事

是や限りならん

我討死せん其後は

尊氏天下に横行し

叡慮を惱し奉らん

汝行其不義の勢に恐れ

身命を助らん為めに

多年の忠烈を捨て

敵に降伏するなれ

一族郎黨一人たりと云

生長らへてあるならば

金剛山に引籠り

願くは戰場に具し給へ

父諸共討死をこそはらめと

涙ながらにさひつるを

正成表とは思ひけれと

心弱くは叶ふまじと

聲勵まして尚更に

申含めて正行の

顔のあたりは手と當て

之れが此世の見終めと

思へば猛き大丈夫の

心も今はみだれ髪

搔上げつゝも正成の

目元に籠る無量の思ひ

振り顧り見つゝ正行は

名残り惜げに別れけり

親と子が別れ苦も別れぢきを

わかれておなご路をふみけり

嗚呼正成や正行や

一門こそつて忠義の鑑

花は咲ねど楠の

かほりは今も香ばしく

幾千歳の後までも

語り傳へて残さなもん

傳へ語るぞ目出度けれ

明治四十三年六月十日印刷

全 四十三年六月二十五日發行

編發行人兼

有村彌四郎

印刷人

藤井護三郎

發行所兼

藤井改進堂

大阪市東區和泉町二丁目一番地

電話東四五九番

長電話東二七〇番

265
109

